

# なでしこ

SAISEIKAI OMUTA HOSPITAL SEASONAL REPORT

初刊号 Vol. 1

2024.4

SPECIAL ISSUE

教えて! Doctor

整形外科医長  
竹下 修平 医師

令和6年度が幕開けし、この度新たに病院広報誌を刊行することと致しました。この広報誌を通じて、済生会大牟田病院の思いや取り組みを共有していただき、皆様との絆を深めるツールになれたらと思います。

さて、昨年3月から4月に取り組みました当院のクラウドファンディング「困った人に手をさしのべて、新たな救急車で、足になる」プロジェクトに対しまして、425名の皆様から、目標1,300万円を大きく上回る17,329,000円のご寄付をいただきました。これは、当院のみならず、大牟田・有明消防隊の現状を多くのメディアで取り上げていただき、地域の皆様と大牟田市、有明医療圏の課題を共有するというテーマに共感を得られた結果だと感じています。そして、3月15日にこの救急車が納車されました。改めて御礼申し上げますとともに、多くの皆様からの応援や期待のお言葉の一つ一つを励みとし、これからも皆様の声に応えられるよう二層の努力を続けていく覚悟です。

今年度は、医療業界において診療報酬改定、介護報酬改定、障害福祉サービス報酬改定と、トリプル改定や、医師の働き方改革が行われる大きな年となります。改定後は多少の混乱が予測されますが来院される患者様へは丁寧な説明を行い、安心して受診いただけるよう対応してまいります。

有明医療圏においては労働者人口減、周辺都市部への人口流出が続き、さらに高齢化率上昇の影響もあり、急性期病床過多、回復期病床不足が報告されています。そこで当院では、国の政策に準じ、今年3月から急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟に加え、地域包括ケア病棟を開設しました。これに合わせて、病床数を20床削減し、個室の充実、2人部屋の新設など、ゆとりのある空間、快適な居室を造り、きめ細かいサービス提供を可能にしてまいります。詳しくは、病院ホームページなどで通してお知らせしてまいります。

また、4月からは土曜日の外来診療を休診と致します。患者様へは大変ご不便をお掛け致しますが、リモート診療の導入など多様な体制づくりにも取り組んでいます。ご理解とご協力をお願い致します。

当院には今年も17名の新人を迎えることができました。彼らの熱意は当院に新たな活力をもたらしてくれるでしょう。済生会大牟田病院は、「困った人に手をさしのべる」という済生会の基本理念のもと、「地域住民の皆様の健康を守る」「生活困窮者を济す、医療で地域の生を守る、医療と福祉の切れ目のないサービスを提供する」という目標を胸に、職員一同邁進してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



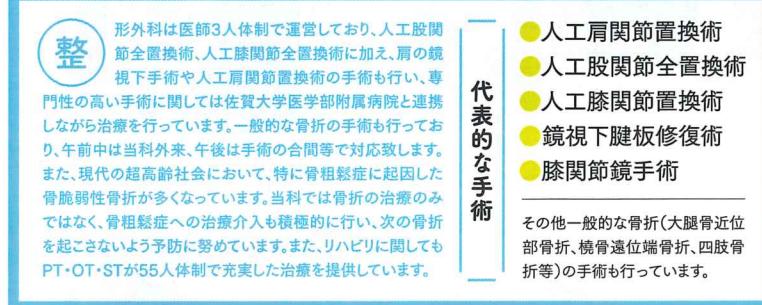
患者やご家族に  
寄り添って

一方で術後のリハビリにも力を入れており、状況に応じて継続的にしつかりと取り組むことができます。「例えばですが、術後1週間経ったので帰ってください、この手術は3日で帰ってください」とか。まだちょっと痛いんだけど……もう少しリハビリしたいんですけど……っていう場合でもやむを得ずベッドを空けないといけないとかそういうふうな状況の病院もあると思います。当院はある程度、

につながり、さらに「家族への負担も減るのではないか」と思っています。

今後は「手術ロボットなどに代表される最新のツールや設備の充実はもちろんですが、より専門性を高めていきたい」というのはあります。手術にしろ、手術以外のことにもしろですね。既存のものから最先端の治療法まで。また再生医療も進んできている分野なので」。キラキラと輝く竹下医師の瞳が見据える先に、地域医療の未来があるのかもしれません。

## 整形外科の特色



関節の専門医

卷之三

この連携

整形外科の医師は手術や入院患者への対応だけでなく、一方で外来診療も行っています。「患者さんに喜んでもらえる」ことが励みになるんですよね。痛くて歩けなかつた人が歩けようになつたとか、これまでできなかつたことができるようになったとか。趣味とか運動とともにそうですけれど、痛みが軽くなつて旅行に行けるようになるとかですね、そういう患者さんの、なんていうか、自分が手術したり何かしらで関与したりして状態が良くなつて喜んでいただける、そういう意味では非常にやりがいは大きいですね」。多忙な日々の診療も、患者の安心した表情を目の当たりにすると報われます。

なかでも地域医療の役割を担う済生会大牟田病院整形外科の一番の特長はその専門性です。整形外科部長である古畑友基医師は肩関節の専門医、医長である竹下修平医師は膝関節の専門医で、それぞれの専門に特化した知識やスキルを追求し身に付けることで、様々な難しい状況にも柔軟に対応ができる体制が整っています。また、関節手術に知見のある佐賀大学医学部附属病院と繋がりが強く（一時期は股関節の人工関節手術を国内で一番多く手術していました）、連携して対応できるのも強みです。

人口の1/3が65歳以上の高齢者と言われる大牟田市  
その中心で、つらい腰や膝など関節の痛みを診察・治療しているのが

済生会大牟田病院の整形外科です

ここに昨年の4月に着任してきたのが竹下

着任からちょうど1年になる竹下医師が整形外科の役割とその意義を紹介します

# 教えて! Doctor

# つらい関節の痛み！

---

## 整形外科のホープが担う

SAISEIKAI OMUTA HOSPITAL  
SEASONAL REPORT  
**Special Issue**

# 地域医療

竹下

Dr. Shuhei  
Takeshita

修平

医師

Profile | たけした・しゅうへい |

佐賀大学出身。佐賀大学医学部附属病院およびその他関連病院勤務を経て2023年4月に済生会大牟田病院整形外科着任。特に膝関節を専門としている。日本整形外科学会専門医・公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツドクター

増加傾向にある患者の数に  
対応するため設備や人材の増強が  
求められるなかで、一層大切なのが  
「コメディカル（診療を支援する部門のスタッフ）」  
との連携です。受付や看護師はもちろん、リハビリ  
の専門職や薬剤師、他部門の医師など多くの仲  
間とともに治療に向き合うことになります。そこで  
話し合いの場としてカンファレンスを適時行いま  
す。患者やスタッフと状況を共有するだけでなく、  
気になることや困っていること、負担に感じてい  
ることなどを伝え合い、役割分担をしながら対応  
をすることができます。

現在、済生会大牟田病院整形外科の入院患者数は約60名。病床数で一番多いのが整形外科で、それを3名の医師が協力して対応しています。地域には高齢者が多く、同時に様々な関節の痛みや障害に悩まされている方も多いようです。そのような中で、内科や麻酔科などを擁し、複数の医師が所属しさまざまな手術ができる整形外科のニーズは日々高まっています。済生会大牟田病院は病床数が多く、外傷や身体の痛みという患者数が比較的多い分野であるにも関わらず、余裕を持つて受け容れることができるのも特長の一つです。

## 地域の中で 高まるニーズ

整形外科は身体のケガや痛



皆様のご寄付により新しい救急車を導入。納車式が執り行われました。

### 3

月14日、晴天のもと救急車の納車式が執り行われました。新型コロナ感染症の流行以来、当院は過去に類のない経験を重ねてきました。さらに3年前は、大牟田市を襲った集中豪雨により院内1階部分が浸水し、天災の怖さも経験しました。そのような中、大牟田市の救急車出動件数は増加傾向にあり、病院間の転院搬送件数も11%と高くなっています。当院でも、消防署の救急車へ転院依頼することが多くありますが、それは当院の救急車が25年を経過し、設備老朽化していることも原因の一つでした。そこで、これまで

よりも装備や車両性能を備えた救急車へと貿換えを行うことと致しました。導入費用は、地域にお住まいの方々からの温かなご寄付とクラウドファンディングも活用し、合計425名の方から17,329,000円が集まりました。この場を借り、改めて御礼申し上げます。納車式当日は、晴天に恵まれ多くの来賓を招くことができました。交通安全祈願祭の後、テープカットを終えると、稻吉院長へ救急車の鍵をお引き渡しいただき、無事納車式を終えることができました。今後、「困った人に手をさしのべて、新たな足となる」この新たな救急車の運用を進めてまいります。

### TOPICS

## イオンモールは大賑わい！ おおむた産業フェスタ。

### 1

イオンモール大牟田 北側駐車場にて、3月16日、「おおむた産業フェスタ」が開催されました。晴れ渡る青空のもと、大牟田市内70以上の企業・団体が集結した大イベントは朝から多数の来場者で賑わいました。当院も、ドクター、臨床検査技師、ナース、薬剤師、管理栄養士がそれぞれの専門性を活かした出展を行い、納車されたばかりの救急車の前では、白衣やナース服着た子どもたちが記念撮影をして楽しんでいました。



### TOPICS

## 4月1日 済生会大牟田病院に 新しい風が吹き始めます！

### 桜

が満開に咲く4月1日、令和6年度 新規採用者オリエンテーションを行いました。緊張した面持ちの17名を迎え、フレッシュな年度初めとなりました。稻吉院長の挨拶では、祝辞とともに済生会の成り立ちや取り巻く現在の状況、その中で連綿と受け継がれる済生会の精神を伝え、「ともに頑張りましょう！」と新入職員を激励しました。一人一人に辞令が授与された後、それぞれが自己紹介を行い、医療従事者としての一歩へ決意を新たにしました。



出身や職種も様々。彼らが将来の地域医療を支えます！